

令和 2 年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 外国語

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	外国語
----	-----

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
東書	2	英語 501 502 601	NEW HORIZON Elementary English Course 5 NEW HORIZON Elementary Picture Dictionary NEW HORIZON Elementary English Course 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ Picture Dictionary が独立しており、教科書と同時に開いて使用でき、活用しやすい。QR コードによる音声の確認もしやすい。また2年間を通して使用する語彙が学習者にも指導者にもよくわかる。 ・ 写真や絵が多彩に使われており、児童の興味関心をひきつける紙面構成になっている。一方、その情報量の多さが児童の集中を妨げることも懸念される。 ・ 各頁の下段に small talk、word link、sounds & letters があり、帯活動やモジュールで活用でき、繰り返し音と文字に触れることができる。 ・ 各単元最後の Over the Horizon には様々な異文化情報が掲載され、世界や日本の文化への理解・関心を深めることができる。 ・ ペアワーク、グループワーク等が多様で、活動方法が丁寧に示されている。 ・ 各頁に適量の英文が記載されており、主語・動詞が色分けされている部分もあり、文の構造に気づかせる工夫が見られる。 ・ QR コードの構成がわかりやすく工夫されており、音声も多く、有効に活用できる。 ・ 現在使用している副読本「We Can !」と同様に4線の真ん中が広く、字形が崩れることが懸念される。 ・ 音声から文字へとつなげる指導が段階的に行うことができ、児童の書くことへの抵抗感を減らすように工夫されている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
開隆堂	9	英語 503 603	Junior Sunshine 5 Junior Sunshine 6	<ul style="list-style-type: none"> ・後半の「文字に慣れよう」は、読む、書くに特化した20頁あまりの構成で、段階的・系統的に学習を進めることができる。QR コードの音声もついており、モジュール等で、担任が普通教室で指導する場合に便利だと考えられる。また、この頁だけ書きやすい紙質になっている。 ・表紙見開きに Can-Do マップがあり、単元毎にもめあてと振り返りが日本語で示されていることで、見通しを持って学習できる。 ・児童が巻末の「学んだことリスト」で学習内容を確認できる。 ・各頁に適量の英文が記載されており、Activity で使う表現は入れ替える部分に下線があり活動しやすい。 ・紙面はシンプルですっきりしている。 ・既習表現を繰り返し使う場面設定が少なく、単調でインパクトに欠ける面もある。 ・目次に他教科との関連が示してあり、教科横断的視点がある。 ・巻末の切り離して使えるカードが豊富で活用しやすいが、単語リストは文字のみで絵がない。 ・言語活動で重視される日常生活との関連という視点から見ると、5年 P41の「宝物への行き方をたずねる」では、Activity の設定が不自然で、学習内容との関連があまりなく、意図が感じられないものもある。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
学 図	1 1	英語 504 604	JUNIOR TOTAL ENGLISH 1 JUNIOR TOTAL ENGLISH 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の教科書の構成と似ており、単元に入る前に前年度の学習内容を確認する Pre-lesson が 10 頁ある。確認の学習は児童の興味関心をひきにくいものになってしまいがちなため、指導者の工夫が必要だと思われる。 ・ 巻頭 4 頁を使って詳細な教科書の使い方についての説明がある。 ・ 各単元の最初の頁に、単元全体の「学習の進め方」、各頁の右上に本時の学習内容が示されているが、児童の学習の目安というよりも時間配分の目安の意味合いの方が強く感じられる。 ・ 各単元のめあてと振り返りが関連付けられており、加えて、日本語で示してあるので、児童にとって振り返りやすくなっている。 ・ 各単元の最後の Story や巻末にはまとまった英文が記載されているが、単元中の言語活動は日本語の説明がほとんどで、英語の表記が少ない。 ・ ペアワーク等の Activity が Small Talk のみで、英語でやり取りする場面が少なくなっている。 ・ 2 年間に渡って各単元の後にアルファベットコーナーが設けられる等、特にアルファベットを書く活動は多いが、音声と文字を関連付ける活動は少ない。 ・ 全体に写真が少なくイラストが多い。各単元最初の見開きの絵が、どの単元も同じようなイメージで描かれており、それぞれの学習内容と目標をつなげることが難しい。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
三省堂	1 5	英語 505 605	CROWN Jr.5 CROWN Jr.6	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教科書の構成と似ていて、単元に入る前に前年度の学習内容を確認する「英語で言えるかな」がある。確認の学習は児童の興味関心をひきにくいものになってしまうため、使用には指導者の工夫が必要だと思われる。 ・学期毎に HOP、STEP、JUMP という大きな流れがあり、Presentation でしめくくるため、自己評価やパフォーマンス評価を取り入れやすい。しかしながら、HOP、STEP、JUMP という大きな流れと実際の学習活動として、Get Ready、複数の Lesson、Presentation があり、2つの流れが混在しているため、わかりにくくなっている。 ・学期の始めに My Goal を自分で書き込み、学期の終わりに振り返る設定になっている。記述式のため、難しく書きにくいと感じる児童もいると思われる。 ・各頁にタイトルやめあてが明記されておらず、目標がわかりにくい。 ・単元中の言語活動は日本語の説明がほとんどで、英語の表記が少ない。 ・Story、Enjoy Reading、Enjoy Listening において、まとまった英文に触れることができるが、単元のテーマと一致していない内容のものも見られる。 ・ペアワークやグループワークの設定が少なく言語活動の全体量が少ない。 ・英語のフォントが多種類あり、書く活動で児童が混乱することが懸念される。 ・各単元に Word Chant や Sound Chant があり、くり返し学習することで定着を図る工夫がされている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
教 出	1 7	英語 506 606	ONE WORLD Smiles 5 ONE WORLD Smiles 6	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構成は現在使用している副読本「We Can！」に似ているが、単元に入る前に前年度の学習内容を確認する Let's Start Together 等が10頁あり、中学校の入門期と似た構成になっている。確認の学習は児童の興味関心をひきにくいものになってしまうため、使用には指導者の工夫が必要だと思われる。 ・アルファベットの習得に重きを置いた構成になっている。2年間に渡って各単元の最後にはアルファベットを書く活動があるが、音声と文字を関連付ける活動は少ない。 ・各単元の最後に文字の音に注目させる Sounds and Letters があるが、b と v、l と r 等、日本人の区別しにくい音が中心で、音と文字の関連に気づかせる活動にはなっていない。 ・全体の構成がシンプルでわかりやすく、各頁に1つか2つの活動で紙面がすっきりしている。しかしながら、ペアワークなどの Activity の量が少ない。 ・Activity では目標文を英語で明示しており、入れ替える部分に色がついており、活動しやすい。また Activity の設定もシンプルで様々な活動を取り入れやすい。 ・単元毎にシンプルなめあてと振り返りが設定されている。 ・QR コードの音声と教科書の表記とが違うものもある。5年 P84の教科書は“What ～ would you like?”だが、音声は“What would you like on your pizza?”や“What kind of toppings would you like on your pizza?”となっており、自由な表現をモデルとして示しているが、難易度は高い。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
光 村	3 8	英語 507 607	Here We Go ! 5 Here We Go ! 6	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構成は現在使用している副読本「We Can !」に似ているが、単元に入る前に前年度の学習内容を確認する Let's start が 10 頁あり、中学校の入門期と似た構成になっている。確認の学習は児童の興味関心をひきにくいものになってしまうため、使用には指導者の工夫が必要だと思われる。 ・5 年のスタート時の単元と単元の間に Alphabet Time が設けられ、アルファベット順や文字の形を見分けて書く活動が設定されている。 ・5 年の P 9 3 「伝わる表現を選ぼう」や 6 年の P 9 0 伝えるわざを身につけよう」等で、英語の技能だけでなく、コミュニケーションを図るための言語使用に着目させている。 ・紙面の色調がソフトで目にやさしい。 ・各単元の Fun Time には英語の歌が歌詞付きであり、自然に英語の音やリズムに触れることができるが、単元中の英語表記は少なめになっている。 ・各単元には Goal と振り返りがあり見通しを持って学習しやすい。しかし、「考える」「深める」ことを目的とした振り返りを促す記述もあり、難易度が高くなっている。 ・Let's play では、QR コードに説明はあるが、教科書には、「ペアで『コネクト 3』をしましょう。」や『『ピクチャーフラッシュ』をしましょう。」等の簡単な指示のみで、具体的な活動がわかりにくい。 ・「We Can !」と同様に 4 線の真ん中が広く字形が崩れることが懸念される。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
啓林館	6 1	英語 508 608	Blue Sky elementary 5 Blue Sky elementary 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目次の次にアルファベットの頁があり、その次の Pre unit にローマ字表がある。音声よりも文字認識がスタートになっている。 ・ 各単元の終わりに Let' Read and Write があり、文字と音声を関連付けるよりも、書くことが重視されている。 ・ 各頁の情報量が抑えられ、見やすいが、ペアワーク等の Activity の量が少ない。 ・ 単元の目標と、毎時間の目標が日本語で示されており、単元の終わりにはその目標と呼応する振り返りが 5 項目設けられている。3 項目はチェックマークでの二択評価となっており、評価の幅がやや狭く感じられる。残りの 2 項目は記述式で難易度が高い。 ・ タイトルや見出しの文字を手書き風にするなど変化を持たせ、それ以外の文字はフォントが統一されていて見やすい。 ・ QR コードは一度読み込んだら全て見ることができて使いやすい。巻末に種類別に整理されたワードリストも音声で聞いて活用できる。 ・ 巻末の Can-Do List で見通しを持ったリ、振り返ったりすることができる。 ・ Chant には英語が表記されており、入れ替える部分は□で囲んであり、わかりやすい。また、英文にはアクセント記号が付されている。 ・ 音声と文字を関連付けるコーナーが設けられているが、全体の分量としてはやや少ない。 ・ 様々な活動が設けられているが、英語でやりとりをする内容はやや少ない。

教科用図書調査に関する報告書

外国語 観点別評価 「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る

選定の観点	選定の観点	東書	開隆堂	学図	三省堂	教出	光村	啓林館
学習指導要領との関連	1 学習指導要領に示されている外国語科の目標達成に結び付く内容になっているか。	◎	○	○	○	○	○	○
	2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	○	○	○	○	○	○	○
	3 「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	○	○	○	○	○	○	○
	4 言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	◎	○	○	○	○	○	○
内容	1 日本語との違いに留意できるような発音練習が設けられるなど、音声と文字を関連付けるような工夫がなされているか。	○	○	△	△	△	△	△
	2 日本語と英語の語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにする工夫がなされているか。	○	○	○	○	◎	○	○
	3 ペア・ワークやグループ・ワークなどを取り入れる工夫がなされているか。	◎	○	○	△	△	○	△
	4 学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができる工夫がなされているか。	○	◎	◎	○	○	○	○
	5 外国語活動で扱った簡単な語句や基本的な表現を繰り返し学習できるような配慮がなされているか。	◎	○	○	◎	○	○	○
	6 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを日常生活と関係する身近なものに設定する配慮がなされているか。	○	△	○	○	○	○	○
	7 我が国の文化や英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする配慮がなされているか。	◎	○	○	○	○	◎	○
構成・分量	1 内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	○	○	○	○	○	○	○
	2 児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	○	○	△	△	○	○	△
表記・表現	1 表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	○	◎	△	○	○	○	◎
	2 文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	△	○	○	○	○	△	○
	3 ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮がなされているか。	○	○	○	○	○	○	○